

持続可能な社会へ貢献 働き方改革、健康経営を推進

株式会社KEC

代表取締役会長

津川 淳 氏

代表取締役社長

中川 雅弘 氏



－ 信頼の技術開発と品質－

現在の事業内容をお伺いします。

(中川) 創業当初からの電力インフラ向けの「パワーエレクトロニクス事業」と、「メカトロニクス事業」の2本柱で、売上げの比率は多少変動がありますが、6対4の割合で推移しています。

パワーエレクトロニクス事業では、ダムの監視装置、発電所や変電所の制御・監視装置、さらには小水力発電機器を製造しています。

メカトロニクス事業は、当社の技術力が見込まれて、電力関連以外の機械装置も作るようになりました。1998年に大手はんだメーカーと共同開発した「鉛フリーはんだ付装置」は、現在も様々な製造現場で活躍する商品です。他にもお客様の要望に応じてFA装置を設計・製造し、工場の省力化・省人化を進めてきました。汎用性の高いコンパクトディスクフィーダーや小型ハンドラーユニットは商品化もしています。

旺盛な開発力でお客様の課題解決を図ってこられました。秘訣でもありますか。

(津川) 私は人が好きでして、渋沢栄一翁も述べた「信は万事の本を為す」の言葉のように、まずは信用から始まると思います。人づくりにおいても良いところを探し、一歩でも前進してスキルアップしてもらおうよう促してきました。

仕様通りの見た目や機能といった「品質」に加え、お客様が要求する「コスト」と「納期」、さらに常に最適な材料や部品を探して、ハード・ソフトの設計など最新の「技術」を追求することも、当社の品質だと考えています。

JIS(日本産業規格)やJEM(日本電機工業会が定める規格)を

はじめとする法規制はもちろん、お客様の要求する仕様を把握し、最適な商品を提供することが重要と考え、設計・製造段階での「品質の作り込み」に注力してきました。それができていれば、後工程の試験検査は確認程度で大丈夫になるのです。

この「Q(品質)、C(コスト)、D(納期)、T(技術)」の4つの品質目標は、部門別に計画して四半期ごとに評価し、その都度新たな課題解決のための見直しも行っていきます。

(中川) お客様への提案には、お客様が求める価値を具体的に示したうえで、さらに高い付加価値と信頼性を提供する、プラスαの提案を心がけるようにしています。

中川社長が津川会長から経営を引き継がれて取り組まれたことは？

最初は総務部長として当社へ出向しましたが、津川からの指示は一切なく、「人を見てください」とだけ言われました。問題点・課題を徹底的に洗い出し、体質強化と改革・変革を実行してきました。

財務リストラを敢行し、既存のお客様の管理を徹底しながら、商社取引の見直しや新規開拓を強化して収益力の強化、売上の増加を図りました。また、県内の大学や高校へ小型ロボットを寄贈するなど産学連携の強化を図るとともに、CSRの実施、「14歳の挑戦」受

け入れなど地域貢献にも取り組んでいます。

ものづくりに関する設計や製造は現場の管理者に任せますが、「『できない』という前に、できる方法を考え出す」、「先送りにしない」ということを伝え、「上司が手本になってスピード対応するように」と言い続けています。

働き方改革の取り組みについてはいかがですか。

就業規則や人事制度を見直ししながら、アニバーサリー休暇、リフレッシュ休暇など10日間の制度休暇を新たに制定しました。休暇の取得や残業時間など見える化して、現在の平均残業時間は月18時間、有給休暇取得率は70%になりました。また、在宅勤務やフレックスタイム制度、時間単位の有給休暇も制定・導入済みです。

健康管理も社内の健康セミナー開催や、「私の健康宣言」募集など、積極的に行っています。健康優良企業「銀賞」にも認定されました。

－ 省エネ・省力化で力を発揮－

今後の展望を教えてください。

パワーエレクトロニクス事業・メカトロニクス事業ともにIoT化・ICT化への対応やAIの活用に注力していきたいと考えています。特にパワーエレクトロニクス事業においては「カーボンニュートラル関連」の新規事業を、自

動化・省力化が進むメカトロニクス事業においては当社が得意とする樹脂成形分野のほか、医薬品業界への納入も始め、半導体関連への進出も考えています。昨年から取り組んでいるのが、電気自動車(EV)のリチウムバッテリーリユースで、可搬型のバッテリー電源の商品化に向けて試作品が完成しました。

2021年12月から「富山県SDGs宣言」にも参画していますが、パワーエレクトロニクスとメカトロニクスの技術を生かし、「持続可能な社会」に貢献することが、当社の目指すところです。人と自然を活かし、当社のシステム技術を様々な産業界の省エネ・省力化で発揮していきたいです。

50周年を迎え、100年の節目に向けてちょうど真ん中。創業の精神に立ち返り、「技術開発型企業」として人材投資、開発投資、設備投資を引き続き積極的に行います。**座右の銘をお伺いします。**

「即断実行」、「率先垂範」、「有言実行」の3つの言葉は、銀行員時代から肝に銘じてきました。リーダーに求められる資質でもあると実感しています。そして仕事は厳しいのが当たり前。だからこそ何より「明るく・楽しく」をモットーに取り組んでいます。

会社概要

株式会社KEC

創 業：1974(昭和49)年8月
所 在 地：富山市中大久保173-10
資 本 金：5,400万円
事業内容：電力用発電機器・制御装置・遠隔監視システム、自動はんだ付装置・FA装置等の製造販売
従業員数：67名(2024年7月現在)
売上高：15億6,522万円(2024年7月期)
事業所：本社工場、テクノセンター・婦中工場
関係会社：共創テクノス(株)
U R L：https://www.kecjapan.co.jp



— 中川雅弘社長 略歴 —

1961年10月高岡市生まれ。立命館大学経済学部卒後、1985年(株)北陸銀行入行。2000年から約6年間大沢野支店で(株)KECを担当、その後、所長、支店長を歴任。2016年2月(株)KECに総務部長として出向、同年11月専務に就任、2019年4月から代表取締役社長。

今年50周年を迎えられました。これまでの歩みを教えてください。(津川) 若い頃から起業したいと思っていました。北陸電力で水力発電のエンジニアとして働いた後、東京の機械設備会社で会社経営を学び、1974年に富山市で共立電工(株)(現・(株)KEC)を設立しました。高まる電力需要に応じて安定供給を実現するため、電力制御のための測定器や、ダムに堆積する砂

の検出装置などを開発しました。北陸電力技術研究所と共同で発電所のコンピューター制御システムを開発し、一体型のデジタル制御装置も作り上げました。現在の社名「(株)KEC」は、2005年の富山市の市町村合併に合わせて変更し、「貴社の有能な技術協力者でありたい(Knowledgeable Engineering Collaborator)」との思いも込めています。